

社協だより



No.13 平成5年7月15日

各務原市社会福祉協議会

蘇原北部支部

発行

支部長 河村 一 次

思いやる 心が結ぶ 福祉の輪



平成5年度支部社協、青少年育成合同総会（蘇原北福祉センター）

別表

1. 出生率の低下

西暦年	1949	1965	1975	1980	1985	1992
合計特殊出生率	4.32	2.14	1.91	1.75	1.76	1.50

2. 平均寿命の伸長

西暦年	1947	1970	1975	1980	1985	1990
男	50.06	69.31	71.73	73.35	74.85	75.92
女	53.96	74.66	76.89	78.76	80.48	81.90

3. 高齢化のハイスピード (欧米の2~5倍のスピード)

	65才以上の人口の割合が7%~14%に要する期間
フランス	130年 (1865年~1995年)
旧西独	45年 (1930~1975)
アメリカ	70年 (1945~2015)
イギリス	45年 (1930~1975)
日本	25年 (1970~1995)

4. 総人口増加より多い高齢者人口増 (単位万人)

	平成2年	平成32年	増加数
総人口増	12,361	13,530	1,169
高齢者人口増	1,490	3,188	1,698

二十一世紀に備えて

各務原市社会福祉協議会

蘇原北部支部長 河村 一 次

最近、特に新聞紙上やテレビの画面を通して「高齢化」という活字が私たちの目の中に飛び込んで参ります。そして、その内容の殆どが「我が国の高齢化がハイスピードで進行し、このままで行くと二十一世紀には大変なことになるよ」という警告がなされています。その前提として、出生率の低下と平均寿命の伸長という相反する現象が原因となり、高齢者人口の増加が総人口の増加を上回ってしまうという奇妙な現象を招いています。

昭和二十四年に四・三二人だった出生率は、平成四年には一・五〇人となっております。夫婦二人から一・五人は、完全に人口の減少を意味します。反面、平均寿命は、別表2のとおり四十三年間に男性は二十六才、女性は二十八才と大幅な伸びを示しており、一躍長寿国の様相を呈してきました。次に、高齢化の速度は、別表3のように欧米各国の二倍から五倍の驚異的なスピードで進行していくと、二十一世紀のピーク時には、子供の数が大幅に減る反面、四人に一人という高齢者となり、世界でも類を見ない超高齢化社会が出現するであろうとされています。

昨今の社会福祉をとりまく情勢は、急速な高齢化の進行と著しい社会環境の変化によって福祉のニーズは多様化と増大をもたらし、社会的な援護を必要とする人々の範囲がますます拡大してきています。こうしたとき、在宅福祉サービスを中心とした諸施策の整備が急務であり、ボランティア活動の振興と基盤の整備などを当面の最重要課題として取り組んで行かねばなりません。

今後は、私たちひとりひとりが、福祉に対する理解を一層深めると共に明るく活力あるまちづくりに貢献し、血の通った暖かい思いやりの心をもって、福祉諸団体をはじめ行政等との連携を図りながら、二十一世紀に備えて地域福祉活動を地道にキメ細かく推進し定着させていきたいと願うものであります。

